

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2022年7月)

【内政】

- 12日、ジョベヌ憲法裁判所長官が辞表を提出した。同人は2018年から当該役職に就いていた。(13日、Matin Libre 紙)
- 14日、ジョベヌ元憲法裁判所長官が進歩党(UP 党)党首、シャビ・タラタ副大統領が第一副党首、ベノンシ氏が第二副党首にそれぞれ就任した。(18日、L'Événement Précis 紙)
- 27日、タロン大統領は当国訪問中のマクロン大統領との共同記者会見で、(政治的理由と考えられている)拘留者の恩赦は排除されない旨発言した。(28日 Le Matinal 紙、Le Matin Libre 紙及び L'Événement Précis 紙)

【外政】

- 3日、ECOWAS 首脳会合においてヤイ・ボニ前大統領がギニア調停役に選出された。(5日、Le Matinal 紙)
- 11日、ソグロ元大統領は8日に亡くなった安倍元総理への弔辞を発出した。(13日、L'Événement Précis 紙)
- 27日、マクロン仏大統領がベナンを訪問。タロン大統領と会談を行い、仏からの返還美術品展覧会をタロン大統領他と鑑賞した後、共同記者会見に出席。その後、仏系教育機関エコール・モンテーニュを訪問し女子スポーツ振興イベントに参加した。(28日及び29日各紙)

【治安】

- 4日、アリボリ(Alibori)県カリママ(Karimama)市においてテロ武装勢力による待ち伏せに遭ったベナン国軍兵2名が死亡した。同攻撃によりバイク2台、武器等が持ち去られた。(6日、Le Matinal 紙)

【経済】

- 5日、ベナン政府は1800億フラン CFA に上る借入金の資金調達を開始した。当該資金はベナンの経済社会開発を促進する PAG 第二フェーズのために使用される。(8日、L'Économiste 紙)
- 国際通貨基金(IMF)は6.38億ドルのベナン向け財政支援を決定した。同支援はベナンの治安対策および持続可能な開発に寄与するもの。(11日、La Nation 紙)

【文化・その他】

- 16日、仏から返還された文化財の大統領府における展示会「Art du Bénin」が再度開幕し、8月28日まで45日間一般公開される。(19日、Matin Libre 紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'Économiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ 1日、2018年10月18日に有罪判決を受け、2019年4月に仏において政治的亡命者認定を受けたセバスチャン・アジャボン氏の自宅の家具等が政府の決定により押収された。(4日、Le Matinal 紙)
- ・ 11日、タロン大統領およびブラボヌ国民議会議長はそれぞれジョベヌ憲法裁判所長官と面会した。(12日、Le Matinal 紙)
- ・ 12日、ジョベヌ憲法裁判所長官が辞表を提出した。同人は2018年から当該役職に就いていた。(13日、Matin Libre 紙)
- ・ 14日、ジョベヌ元憲法裁判所長官は進歩党(UP 党)党首、シャビ・タラタ副大統領が第一副党首、ベノンシ氏が第二副党首にそれぞれ就任した。(18日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 27日、タロン大統領は当国訪問中のマクロン大統領との共同記者会見で、(政治的理由と考えられている)拘留者の恩赦は排除されない旨発言した。(28日 Le Matinal 紙、Le Matin Libre 紙及び L' Evénement Précis 紙)

【外政】

- ・ 客月30日、サンズ駐ベナン・スペイン大使およびハン駐ベナン・ベトナム大使がそれぞれアベノンシ外務・協力大臣に信任状写しを奉呈した。(1日、La Nation 紙)
- ・ 3日、ECOWAS 首脳会合においてヤイ・ボニ前大統領がギニア調停役に選出された。(5日、Le Matinal 紙)
- ・ 3日、ECOWAS 首脳会合において、タロン大統領は西アフリカ文化財・芸術作品返還議長に任命された。(5日、La Nation 紙)
- ・ 6日、在ベナン米国大使館における米独立記念式典の場において、シュカン米国大使は、米がベナンに対し、安全保障分野における1500万ドル以上に上る支援増額を行うことを宣言した。(8日、Le Matinal 紙)
- ・ 11日、ソグロ元大統領は8日に亡くなった安倍元総理への弔辞を発出した。(13日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 12日、ヤイ・ボニ前大統領はウワタラ・コートジボワール大統領と面会した。(14日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 22日、ベナンとニジェール及び仏ボロレ社は、両国間をつなぐ鉄道建設にかかる委譲契約が司法問題により継続困難となったため破棄する旨合意・署名した。署名式典はバズム・ニジェール大統領とピオ・チャネ開発及び省庁間連携担当国务大臣並びにクナム国璽尚書・法務大臣が出席した。(25日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 26日、駐ベナン・エジプト大使公邸にて開催されたエジプト独立70周年記念レセプションにおいて、同大使は両国間の良好かつ活発な関係を歓迎した。(28日付け La Nation 紙)

- ・ 27日、マクロン仏大統領がベナンを訪問。タロン大統領と会談を行い、仏からの返還美術品展覧会をタロン大統領他と鑑賞した後、共同記者会見に出席。その後、仏系教育機関エコー・モンテーニュを訪問し女子スポーツ振興イベントに参加した。(28日及び29日各紙)

【治安】

- ・ 4日、アリボリ(Alibori)県カリママ(Karimama)市においてテロ武装勢力による待ち伏せに遭ったベナン国軍兵2名が死亡した。同攻撃によりバイク2台、武器等が持ち去られた。(6日、Le Matinal 紙)
- ・ 11日、ベナンはニジェールとの軍事協力協定を締結した。(14日、Le Matinal 紙)
- ・ 26日、ヤヤ共和国警察長官は、ナイジェリア国内の刑務所からの脱獄者にはテロリストも含まれているとして、対テロ特殊部隊の動員を呼びかけた。(28日、L'Événement Précis 紙)

【経済】

- ・ 1日、世銀は国際開発協会(IDA)を通じてベナンの農村地区における飲料水供給のため、2.5億ドルに上る財政支援を実施した。(4日、L'Économiste 紙)
- ・ 5日、ベナン政府は1800億フラン CFA に上る借入金の資金調達を開始した。当該資金はベナンの経済社会開発を促進する PAG 第二フェーズのために使用される。(8日、L'Économiste 紙)
- ・ 国際通貨基金(IMF)は6.38億ドルのベナン向け財政支援を決定した。同支援はベナンの治安対策および持続可能な開発に寄与するもの。(11日、La Nation 紙)
- ・ 13日、持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN)は、ベナンにおける政治、進歩、SDGsの傾向について最初の報告書を発表した。SDGs達成率に関しては100点中50.7点を獲得し、強力に取り組んでいる旨評価された。(14日、La Nation 紙)
- ・ 21日、ヘホメ・インフラ・運輸大臣およびドゥ・イザギール・コルスエア社長は、コルスエアにかかる協定に署名した。2022年11月8日に最初の航空便が往来予定であり、以後パリ・オルリー空港とコトヌ空港を直行で結ぶこととなる(コトヌ発は毎週火、木、日)。(25日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 27日、マクロン大統領のベナン訪問に同行していたオリビエ・ベヒト貿易担当相及び仏企業関係者らは、グロジベ(Glo-Djigbé)経済特区を視察した。(28日、Le Matin Libre 紙及び29日、Le Matinal 紙及び L'Événement Précis 紙)

【文化・その他】

- ・ 16日、仏から返還された文化財の大統領府における展示会「Art du Bénin」が再度開幕し、8月28日まで45日間一般公開される。(19日、Matin Libre 紙)
- ・ 13日、2022年のバカロレア試験の合格率はベナン全体で59%である旨公表された。(14日、Matin Libre 紙)